

駒澤大学1 - 3 東京学芸大学

相手の攻撃を跳ね返す中山。DF陣は東学大のスピードに苦戦した(撮影・中野成博)



4連覇へ痛い黒星スタート

王者の自滅

東学大は2トップと両SHにスピードタイプの選手を揃え、序盤から駒大DFラインをかき回しかかっていた。制空権こそ握っていた駒大だが、相手FWの突破に着いていけず数人がかりで止めるのが精一杯。一方で奪ってから田谷のスピードを活かす早い展開を見せるのが好機までには至らない。30分あたりからは、セカンドボールも拾えず、クリアも味方に繋がらず攻撃の形が全く作れない。それでもシュート9本を浴びた前半を無失点で乗り切り、勝負の後半へと臨んだ。

しかし、後半に入ると東学大の試合運びは更に質を上げる。左右へのワイドな展開で駒大にボールを触らせなければいけなかった作業の中、53分についてはゴールをこじ開けられる。70分には東学大の調子の良さを象徴するようなミドルシュートを決められ2点目を献上。ここで途中出

場の高崎と菊地を前線に上げパワープレーに出るがボールが思うように繋がらない。逆に75分には3失点目を喫した。小林が「全部ミス絡みで悔いが残る」と振り返った3失点。王者の「自滅」が色濃く映し出されていた。

決勝T進出へ追い込まれた駒大のわずかな希望が、3失点後のプレーに見えた。まず、89分の榊原のゴール。「このゴールを次に繋げないといけない」と榊原。劣勢ながら自分たちの得点で終えたことの意味は大きい。そして、ロスタイムに警告を受けた菊地を八角が叱責した「あと2試合あるんだぞ」との言葉から見える、総当たりという方式によって残される可能性。これを自分たちの力で生かさなければいけない。幸か不幸か、「死のエブロック」は静産大と新潟経営大が引き分けたため、さらに混迷を極める。自滅からは何も得られない。目の前の可能性は自分たちの力で引き寄せられないのだ。

(星 宏樹)

12月19日 磐田スポーツ交流の里ゆめりあ

駒大1 - 3 東学大☆ 【得点者】()内はアシスト

【メンバー】	53分: [東]
GK 山内達夫 [4]	70分: [東]
DF 湯川貴嗣 [4]	75分: [東]
塚本泰史 [4]	89分: [駒] 榊原 (島田)
中山友規 [2]	
武田憲明 [3]	
MF 八角剛史 [4]	
田谷高浩 [4]	(→71分 島田祐輝 [3])
小林竜樹 [4]	
山崎健太 [2]	(→60分 高崎寛之 [4])
FW 榊原浩一朗 [4]	
東平大佑 [4]	(→71分 菊地光将 [4])
【SUB】	
GK 岡大生 [1]	DF 伊藤 龍 [2]
MF 加藤正樹 [4]	FW 那倉夢人 [2]